

教祖140年祭
三年千日の
活動方針

「教祖のひながたを目標に
全教会心定めの達成」

◇教祖御誕生祭4月18日執行◇

226回目の御誕生日に、国の内外から多くのようぼく信者が集い、お祝いさせて頂いた。

◇第106回婦人会総会4月19日開催◇

全国各地から約21,400人の会員が参集した。

◇全教一斉ひのきしんデー4月29日終了◇

「成人の旬 一手一つにひのきしん-日々の実践につなげよう」をテーマに、国内外の各地で実施された。



発行所
天理教網走大教会
布教部出版広報掛
〒093-0073
網走市北3条西6丁目
TEL 0152-43-2227
FAX 0152-44-2227



大教会のHP がご覧になれます！
月報には掲載されない写真もいっぱいです！
ぜひ一度ご覧下さい♪

大教会四月月次祭

大教会4月の月次祭は、12

日午前9時30分から新川正人理事祭主のもと、執行された。

新川理事は祭文で、親神様の御守護に御礼申し上げた後、「この月十八日は、教祖が尊い御魂の御いんねんにより、寛政十年この世にお生まれ遊ばされましたためたい御誕生の日柄でございますので、お許し頂いております。今日この日に、御存命の教祖の御誕生日を心からお祝い申し上げ、只今からちばの理を戴き、おつとめ奉仕者を先頭に、参拝者一同みかぐらうたの調べに

神殿講話

山崎 篤代 准役員



神殿講話抜粋

教祖百四十年祭三年千日が打ち出されてから早くも折り返し地点になろうとしている

慶び心も一入に、陽気に座りづとめ・ておどりをつとめて、四月の月次祭を執り行わせて頂きます。

又、全教一斉ひのきしんデーが各地で開催されますが、例年にも増して大勢に声を掛けさせて頂き、大教会に繋がるようぼく・信者の家族が揃って参加させて頂き、お借りしている身体を結構に使わせて頂いている喜びと感謝の心で御恩にお応えさせて頂きたいと存じます」と奏上した。その後座りづとめ・十二下りのてをどりが勤められ、参拝者は共に勇んでみかぐらうたを唱和した。

成人の歩みを進めることが教祖年祭を勤める意義である。」と仰っています。

年祭活動が始まってからの、自分の身の回りで起きたことを振り返ると様々なことがありました。

昨年三月に突然兄の出直しがあり、七月には駐車場で事故を起こし、八月には新型コロナウイルスに感染し、熱が続き水も飲めない、食欲もなく、日に日に体力の落ちていくのがわかる状態が続いていたのです。

その後、すぐ上の兄が体調を崩して入院になり、先生の話や先生と「もう、老衰ですね」と言われ、先の短いことを告げられ、コロナの為、病院に行っても面会できず、ただ陰願いの日々でした。そして、十月には駐車場でもまた車の事故を起こしたのです。奇しくも夫の三十年祭を終えたばかりでした。

十一月には五代会長夫人昌子奥様の二十年祭が行われるための準備の最中に、上の兄の様態が一進一退という状況で、何とか無事二十年祭を終えるまでと思いが、日々

を過ごしていました。無事昌子奥様の年祭を終えた次の日の夜より、私が夜付き添うことになり、ものも言えず横たわっている兄の姿を見た時にもう助からない命ならば、せめて苦しまずにと願って、おさづけを取り次いでいました。

十一月十七日、昼の付き添いを終えて、夕方兄の息子と交代して、家に着くか着かぬ間に電話が入り「すぐ来て」とのことと病院に戻ると兄は出直していました。あとで義姉に出直した時の状況を聞いたところ、苦しみも無く、スーッと息を引き取ったとのことでした。それを聞いた時私は何かホッとしたのです。成ってくださることを喜びなさいと聞かされてきましたが、一年に二人の兄の出直しと二度の車の事故は、どうしたのかと思案させて頂きますと、どちらの事故も自分の不注意が原因であり、物損のみで人身事故にはならなかったことは、大難を小難で通らせて頂いたのではないかと思案したのです。

コロナになり一ヶ月近く日

参することも出来ず、家から出られず、教祖は何を望まれているのか？と、考えた時、自分は今まで見ては不足、聞いては不足の心を使っていたのではないかと、思案をしたのですが、そんな心ではダメと、言われている様な気がしたのでです。

年は変わり今年三月にはインフルエンザに罹り、三月の月次祭・霊祭りは勤めさせて頂きましたが、全くひのきしんが出来ない状態だったので。この時も高熱が続き家で寝ている状態でした。しかも発熱したのが兄が出直して一周忌を迎えるその日でした。世話になった兄の法要にも行けず、本当に私は恩知らずなのだと思います。ただ布団の中で悶々としていたのです。でも、思い返せば、いかなる時でも教祖の事を思い、良い方に考え、大病になつたわけでもなく、ちよつとの休養が頂けたのかなと、思い直し、身上壮健でひのきしんをさせて頂ける事が本当にありがたいことだなと思わせて頂きました。

親神様は「をやの思案とい

うのは、わが子をたすけることばかり思っている」と厚い親心をもって我々人間を導いて下さいます。だから人間はただ、親を信じて安心してついでいく、そんな姿勢が大切なのです。

親神様と人間の関係は、創造主の親と創られた子という関係の他に「かしの・かりもの」という表現で表される賃借関係が存在します。親神様は、人間が陽気ぐらしをするのを見て、共に楽しみたいがために人間を創造されました。人間の体は神様からの借り物で、心だけが自分のもの。この心を磨いて神様の思いに少しでも近づかせて頂くことが、借り主の親神様に対しての御礼となり、親孝行となるのであります。

親神様は、世界中の人間の親ですから、世界中の人がみな幸福になつてほしいという気持ちを持っておられ、道に迷いそうになっている子供がいれば、正しく導こうと病気で知らせて下さったり、問題を与えては反省の機会を下さっています。

下さる親神様に対して、私たちは具体的に日々どのような通り方をしたらよいのでしょうか。

例えば、朝、夕のおつとめに参拝すること、親神様に感謝の気持ちをはひのきしんの態度で表すこと、人のためにつくす喜びを感じられる人間になることとあります。

いつも陽気に勇んだ心で人をたすける心をもって行動することが、親神様にお喜び頂けるし、陽気ぐらしへとつながる道となるのであります。平成元年九月の網走月報に三代真柱様が常呂分教会にお入り込み下さった時の教祖絶対の信念のお話のお言葉が掲載されていたので、少し振り返らせてもらいたいと思いません。

のです。信仰者なら、願いがすべて叶えられる、とは言えません。親神様は、願い通りではなく心通りの守護を約束して下さっているからです。

思うようにならんとき、世間の人なら原因を他の人や世の中に転嫁したがるものです。信仰者なら、まず自分を反省し、そして入れ替わった心が思召にさえすうと通つたら、そこに不思議が現れるのですから「反省する」ことと「思うようにならんことでも喜べる」というのは、信仰者の強みだと思ふのです。

どんなに辛く苦しい事があつても、それが我が心を振り返る材料として、成人をさせてやりたいという一途の親心から与えられたのだと思案し、一つひとつ乗り越えていけば、その人はだんだん大きくして頂ける。それが心の成人なのです。

あの時は苦しかったが、こんなに結構にして頂いたと、あとで述懐させて頂く日が必ず来るのであります。成つてきたことをすべて喜ぶというのには、そう簡単なことではありませんが、それが

思召なのだと思ふところに、楽しみの比重が増えてくるのです。

私は、喜びというものは、探し取るものだ、自分でつかむものだ、と考えているのです。教祖についていった先人たちは、なぜついていったと思われませんか。たすけて頂いたそのご恩に報いたいからついていったのです。その結果が今日の道の姿なのです。私たちも同じ信念でなければいけません。ご恩報じの道は、ひながたをたどればよいのです。その中でも一番最たるものは人だすけなのです。先人たちが、初めから人だすけをしたわけではありません。自分のたすけを求めてご恩に帰ると教祖は、たすけてほしいなら人をたすけなさい、と仰せられた。先人たちは、それを真に受けてやっただけなのです。

素直に実行してみると、人がたすかるばかりでなしに、自分もたすけて頂いていることに気づき、人だすけとはこんなにありがたいことなのかと悟つて、もう自分のことはどうでもよくなつて人だすけ

のみに奔走したのです。にをいがけ・おたすけは、結果を求めてはいけません。結果は、神様がにをいがけをされているその人の心通りに見せて下さるのだから、私たちはまず、にをいがけをするという心を決め、実行に移し、一遍や二遍であきらめずに積み重ねることをしなければなりません。その真実が天に届けば必ずにをいはかかります。教祖とその道具衆たる我々ようぼくも、そういう間柄でなければなりません。ようぼくたる自覚を全員が持ち、素直に勤めさせて頂いているという実をもつて教祖に込めさせて頂くようにはありませんか。これ以上教祖にご苦勞をかけたくはありませんもの。

昔は、教祖が絶対だという信念が強かったから、訳がわからなくてもやれと言われたら、素直にハイと言うてすぐ実行した。今は訳がわからずからやる。そこに遅れが生ずるのです。

聞いたことを素直に実行して教祖の使いやすい道具にならせて頂き、次々と御用が頂けるようにならなければなりません。昔は、教祖が絶対だという信念が強かったから、訳がわからなくてもやれと言われたら、素直にハイと言うてすぐ実行した。今は訳がわからずからやる。そこに遅れが生ずるのです。

どうも無条件で教祖に素直にならせて頂き、先人に負いぬ気力を持ちつつ、信念の確立に励みそれをにをいの元として、しっかりとにをいがけ・おたすけに奔走させて頂きましよう。と、つづられています。

近年ではこのように親神様、教祖を信じて何が何でも助けたいとの心は薄れていっているのではないのでしょうか。我々信仰者は親神様からお借りしている体であることを自覚して、常に日々を普通に生活させて頂けていることへの感謝を忘れず、お礼申し上げて通らせて頂きたいものです。私たちは、よくお初お初と言っていますが、食べ物だけではなく、例えば車の購入であったり、家庭電化製品等を購入し使用前には必ずお初御供をすることを教えられてきました。それはいつまでも事故なく安全に長く使用させて頂くためのことだと思います。また、衣類であつたり自分の欲しかった物を頂いたりした時には、買ったつもりでいくらかの御供をする。

これはつまり御供と私は自分でそう思っています。これ

のうて通らせてもらうことが大切で。教に従うて通らんから、綺麗な道がむさくろしいなる。皆行き難くい道を尋ねて捜すからどんならん。(明治三十年十一月十三日)

知らず知らずのうちに勝手な思案をしたり、都合のよいようにものを考えたり、心も尽くさず身も動かさずして結果ばかりを求めめる者が多い、と仰せられているように思うのです。

自分が通りやすいように都合よく教えを解釈するのではなく、教えに心を合せず努力をするのが、私たちの立場なのです。私たちは疲れを防ぐために壁や柱にもたれますが、それが倒れないと信じているからこそ、安心してもたれられるのです。親神様、教祖は絶対だと信ずるから、もたれきつてついでに行けるのです。教祖が先頭に立つてつづられた道を、通られた通りに通らせて頂きさえするならば、決して間違いはないと仰せられるのですから、ある意味では楽に道を通して頂く方法を教えて下さったのだと私は思う

から教祖百四十年祭までの約一年八か月、皆さんもつくり御供をしてみませんか？この大きな大教会の普請をした時の借財の返済には四代会長夫人利恵奥様を筆頭に、役員先生他会計に携わった先生たちは大変な苦勞の道を通つて下さっているのだと思ふのです。年末になると自教会にも帰らず、ひたすら借財の御用に費やしていたのでしよう。

そんな中でも教会の中はとも賑やかで和気あいあいとしていたのを覚えています。みんなが喜び勇んでいた姿だったのだと思ふます。

私たちがこの様に結構な生活させて頂けているのは、初代様をはじめ皆様方がご苦勞の中を通りきって下さった事はもちろんのこと、全ての人たちが教会への心を持つて、運んで下さった賜物なのでしよう。

信仰も後世に繋がつてくれる子供、孫たちには、空手形は渡せないのです。しっかりとおたすけをさせてもらい、「この信仰が間違いないのだ」という手形を渡す事が大切なのではないのでしょうか。



全教一斉 ひのきしんデー

4月29日、「成人の旬」の一つにひのきしん―日々の実践につながる―をテーマに、国内外の各地で実施された。大教会のある網走支部網走組は、今年も「道の駅流氷街道網走」を会場に行われ、54名が参加し、道の駅の清掃をさせて頂いた。

日頃のひのきしん活動の集大成として、全教のようぼくが心一つに実働させて頂き、生かされている喜びを味あわせて頂いた。



登殿参列

4月26日、春の陽気を感じられる穏やかな気候の中、7名の教会長が登殿参列させて頂いた。

普段間近で見える事の出来ない、かぐらづとめを目の前で拝させて頂き、年祭活動の勇みとさせて頂いた。

▼美幌・東藻琴・実東・宗稚 誠央・徳元・網走分教会長

今回、五回目を受講させて頂きまして、はつきりわかりました。自分のいんねんの深さでした。次から次からと身上の方が増えていき、ほとんどが、癌であるということですが、でも、今世癌を患っていないので、これからもたくさんの人をたすけさせて頂き、自分の因縁を今世で切つて頂こうと思っております。

誠綱 小笠原 敏子

基本であるところ(原点)などを繰り返し学ぶことができて良かったです。又、ねり

天理教の名前と主な活動しか知らなかったもので、少しでも深い内容を聞くことができ、良かったです。もっと興味がありました。

女満別 姉崎 明美

多くの方々に関わって頂いてこのセミナーに参加できることに感謝と喜びを感じます。ねりあいでのお互いの解釈を聞き合えることが、とても考えさせられる時間でした。深く考えること、思い返すことを重ねて、成人させて頂くと思われました。

誠綱 加藤 悦里

陽気ぐらしに努められるような柔軟な心を持つことを心がけたいと思われました。

誠綱 柴田 克子

人間の体は神様からの借り物、心だけは自由に使えること、陽気で暮らすことなど、本当に何から何まですごいお話を聞かせて頂き、心も身体もすっきりです。

三日間、何も疲れず楽しく、先生一人ひとりが、楽しくわかりやすく、お話をさせて頂きました。本当に有難うございました。

立教187年 人のご守護 心定め			
初席者	ようぼく	修養科修了者	教人
60名	29名	18名	11名
成 果 (4月末現在)			
6名	5名	2名	0名



修養科事前研修会 よろこびセミナーを受講して



教祖誕生祭・婦人会第106回総会

4月18日、中山大亮様祭主の下、教祖誕生祭が執行され、教祖26回目のお誕生日をお祝いしようと、網走大教会に繋がるようばく信者も大勢おどばに参集した。

17日は、史跡ツアーと本部神苑の草引きひのきしんをさせて頂いた。また、婦人会では、委員長講習会を二階大広間で開催させて頂いた。

18日朝づとめ前には、回廊拭きひのきしんをさせて頂き、その後、教祖誕生祭を参拝させて頂いた。夜は懇親会が行われ、旬のタケノコの天ぷら



委員部長講習会

翌19日には、婦人会第106回総会が開催された。全国から2万1千400人の会員が参集した。中山はるえ婦人会会長は挨拶の中で「産み育ての徳分を頂く女性が、温かい心でつなぎの徳性を発揮して、共に年祭活動に動いて下さる人を増やしていこう」と呼びかけられた。

引き続き真柱様のメッセージを、宮森内統領が代読され、最後は全員で婦人会会歌を唱和して閉会した。



網走大教会被災地ひのきしん隊出動

4月22日、網走大教会被災地ひのきしん隊が珠洲ひのきしんセンターに入らせて頂き、23日、24日とわずかな時間ではあったが、解体現場のひのきしんをさせて頂いた。

今回は、網走大教会に集まった義援金の一部を使用して頂き、5名が被災地で活動させて頂いた。

珠洲市、輪島市の被害状況を見て回らせて頂いたが、現状はまだまだ行政の力の及ばない所が数多く見受けられ、復興には長い時間を要すると感じられた。



これからも、第二次、第三次の復興ひのきしん隊を予定しておりますので、引き続き皆様の災害救援支援をお願いいたします。

動 静

出直
直轄所属・武田弘樹様は4月15日出直された。享年60歳。葬儀は4月18日みたまうつし、翌19日告別式が東京都葛飾区の島村葬儀社にて瀨川陽一・直轄世話人斎主のもと執行された。

年 祭
網新分教会所属・新川松枝の霊様の10年祭は4月21日網新分教会にて新川正美・網新分教会長祭主にて執行された。

4月人のマシ守護

初席者 (5名)

- 小野寺 真央
佐野 則一
引地 千夏
大坂 國子
山下 哲郎

中席者 (7名)

- 浅田 幸斗
佐藤 勝雄
伊藤 正将
佐野 則一
渡部 順子
秋山 志織
宮本 千加子

おさげの理拝戴者

網新川愛貴

女満別 (3月拝戴)
姉崎 明美

網 徳
浜井 路子

修養科志願者 (3名)
中島 義博
小笠原 敏子
加藤 悦里

修養科修了者 (2名)
姉崎 明美
福田 綾子

傍聴願 (6名)
三幣健志様 (次男小学校入学)
瀨川定自様 (次女高校入学・四女小学校入学)

育英会寄付者

武田 榮様 (長男葬儀)
藤井広志様 (長男小学校入学)
仲澤真理子様 (弟葬儀)

大教会4月の動き

- 1日 役員会会議
6日 お話し会
7日 縦の伝道日
9日 網走支部例会会場
10日 役員会会議
11日 教祖140年祭網走おたすけ委員会会議。育成部部会

12日 月次祭。役員会会議。連絡会
13日 教会長夫妻練り合い。修養科事前研修会網走よろこびセミナー (15日まで)
14日 会長、教区祭実行委員会。縦の伝道日
17日 五季御礼。婦人会委員部長講習会(詰所)
18日 教祖誕生祭遙拝式
21日 縦の伝道日
22日 能登半島地震被災地ひのきしん(24日まで5名参加)。縦の伝道日
23日 詰所23会
24日 会長、本部神殿奉仕つとめる
25日 会長、本部災救隊会議出席
26日 本部月次祭遙拝。会長、教区主事会出席。藤山重善役員、本部神殿奉仕つとめる。
27日 神殿参拝(7名)
28日 会長、かなめ会総会出席。結城和広役員、本部神殿奉仕つとめる
29日 みそか会。縦の伝道日
全教一斉ひのきしんデー

立教187(令和6)年人のご守護成果表 (4月末現在)
Table with columns for church names, membership status (初席, 中席, 修卒, 教人), and cumulative counts (当月, 累計).

4月 月次祭 4/12(金)
Table with columns for participants (神職講話, 賛者, 指図方, 扨者, 祭主) and roles (祭員, 祭典, 座りづとめ, 前, 後).